

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

コウブシとは・・・

コウブシは、ハマスゲ : *Cyperus rotundus* (カヤツリグサ科) の根茎です。イネ科の植物や他のカヤツリグサ科の植物と外見が酷似しているため区別するのは至難です。



これじつは“花”です

これは、他のカヤツリグサ科では見られない繁殖方法である、ストロン（匍匐茎：ほふくけい）の形成が関係していると考えられます。浅い地下に這った根がコブのように大きくなりそこからまた地上を目指し茎が伸びていくのです。このコブが**コウブシ**です。

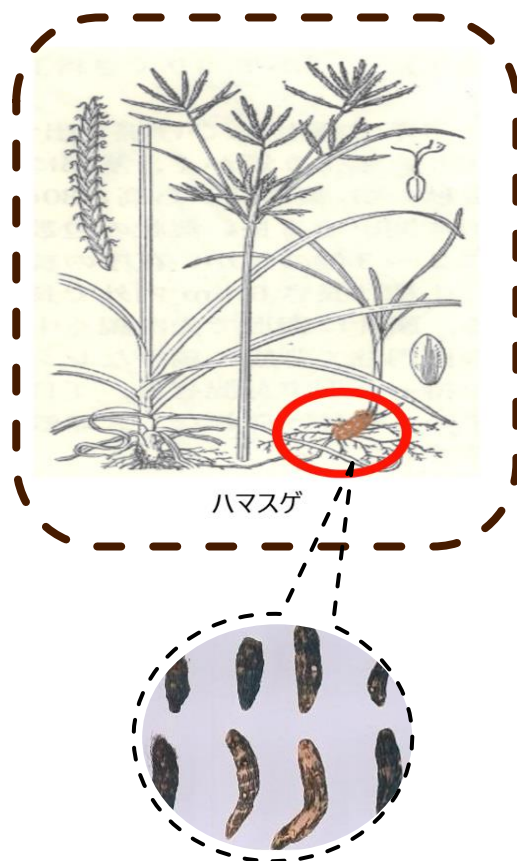
通常、このハマスゲは繁殖力が非常に強く、どのように駆除するかということがインターネット上では主な話題となっていることが多いようです。その理由もこのストロンの形成により、本体が駆除されても、見えないところで根を伸ばし、芽を出すタイミングを伺っているからです。

実際には香り豊かで、特に不安やイライラなど、ホルモンバランスのくずれ、現代風な表現では“ゆらぎ”などの症状に使用されることもあります。

今月のピックアップ°

こうぶし
香附子

生育地として、インドから東南アジア各地に分布し、とりわけ海岸の砂地に自生する多年草です。日本でもアスファルトの隙間から顔を出している様子を見かけることも多く、過酷環境でも生育できる強さがこの植物にはあるようです。こ



ハマスゲ

コウブシを含む方剤・・・

きゅうきちょうけつじん
芎歸調血飲

(体力が乏しく冷え性で胃腸障害のない人の貧血、子宮出血、血尿)

こうそさんりょう
香蘇散料

(気分がすぐれない胃腸の弱い人の風邪の初期、血の道症)

せんきゅうちゃちょうさんりょう
川芎茶調散料 (風邪の血の道症などによる頭痛)

によしんさんりょう
女神散料

(体力がありのぼせ、めまいのある者の、月経不順、血の道症、更年期障害)

コウブシの成分 と薬能・・・

コウブシの主な成分は精油
で、セスキテルペノイドやトリテ
ルペノイドを含有しています。
薬能として、『理気解鬱』とし
て知られており、左記のコウブ
シを含む処方でもわかる通
り、血の巡り、特に女性特有
の症状によく使用され、理気
作用を目的として使用される
ほか、鎮痛、胸腹痛、胃痛な
ども使用されます。

全部カヤツリグサ科の植物です。



コウブシの歴史・・・

コウブシが歴史で初めて登場したのは、『名医別録』(500年ころ)に『莎草』がとして、コウブシはその根として『新修本草』(600年ころ)に収載されます。別の書『本草綱目』(1596年)では莎草は笠や蓑といった雨具を作るのによいと記載があります。しかし実際のところ、ハマスゲ(コウブシ)は蓑づくりに適さず、蓑を作るには同じカヤツリグサ科のカサゲで作られるものであるため、この植物は前述したとおり、古い時代から同じ科の植物と混乱することが多かったことが伺えます。

ハマスゲ(コウブシ)のように同じ科に属するよく似た植物が存在する場合、その同定には苦労することもあります。地上部はほとんど同じでも、今回のように生薬になりうるハマスゲは、地下を掘るとほかの植物にはないコウブシのもととなるコブの存在が不可欠です。歴史的な書物を紐解く際、植物の特性をしっかりと見極めて同じものであるかどうか判断することは至難の業ともいえるでしょう。

